

日中関係史 1972-2012



装丁 間村俊一

I 政治

刊行にあたって i

I 冷戦体制と日本の台頭

第一章 前史 一九四五—七一年(大澤武司)

はじめに

- 一 「不正常な状態」の起源(一九四五—五二年)
- 二 「積み上げ」の展開と挫折(一九五二—五八年)
- 三 過渡期としての「断絶」(一九五八—六二年)
- 四 「半官半民」の展開と挫折(一九六二—七一年)

おわりに

第二章 国交正常化 一九七二年(井上正也)

はじめに

- 一 国交正常化交渉への道
- 二 国交正常化交渉
- 三 日中国交正常化の評価
- 四 おわりに

第三章 日中航空協定交渉 一九七三—七五年(福田円)

はじめに

- 一 日中航空協定交渉における前提条件
- 二 交渉の長期化
- 三 日中交渉の妥結と「中華民国の尊厳」
- 四 日台航路の回復

おわりに

第四章 平和友好条約締結交渉から対中円借款の供与へ 一九七四—七九年(若月秀和)

はじめに

- 一 三木政権と平和友好条約締結交渉の膠着化(一九七四-七六年)
- 二 福田政権と日中平和友好条約締結(一九七七-七八年)
- 三 大平政権と対中円借款供与(一九七八-七九年)

おわりに

第五章 第一次教科書問題 一九七九-八二年(江藤名保子)

はじめに

- 一 問題の発端——教科書修正の誤報とその背景
- 二 「歴史改ざん」批判キャンペーンの展開
- 三 中国の政策決定要因——教科書問題の効果
- 四 日本国内の調整と政治決着

おわりに

第六章 中曽根・胡耀邦関係と歴史問題 一九八三-八六年(服部龍二)

はじめに

- 一 中曽根と胡耀邦の相互訪問
- 二 靖国問題の起源
- 三 参拝中止
- 四 第二次歴史教科書問題と「放言大臣」

おわりに

第七章 光華寮問題 一九八七-八八年(小嶋華津子)

はじめに

- 一 一九八七年から八八年にかけての日中関係
- 二 中国の対日政策の規定要因
- 三 日本の対中政策の規定要因

おわりに

第八章 六・四(第二次天安門)事件 一九八九-九一年(三宅康之)

はじめに

- 一 事件の発生から経済制裁決定まで(一九八九年春-夏)
- 二 経済制裁解除に向けた両国の模索(一九八九年夏-九〇年夏)
- 三 関係正常化の完成へ(一九九〇年夏-九一年八月)

おわりに

第九章 天皇訪中 一九九一-九二年(杉浦康之)

はじめに

- 一 中国による天皇訪中計画の胎動
- 二 天皇訪中の決定過程
- 三 「お言葉」をめぐる政治力学

おわりに

II グローバル化と中国の台頭

第十章 冷戦終結後の日米安全保障体制と日中関係 一九九三-九五(増田雅之、高原明生)

はじめに

- 一 安全保障問題の浮上
- 二 台湾の民主化とその外交活動の活性化
- 三 国民感情の悪化と歴史問題の拡大

おわりに

第十一章 橋本首相のユーラシア外交と江沢民主席の来日 一九九七—一九九八年(江口伸吾)

はじめに

- 一 橋本首相の対中四原則の提唱と訪中——ユーラシア外交を契機として
- 二 李鵬総理の来日と対日五原則の提唱——多極化する国際秩序と日中関係
- 三 江沢民主席の来日と「友好協力パートナーシップ」の構築

おわりに

第十二章 二国間実務協力と東アジア地域協力の進展 一九九九—二〇〇〇年(益尾知佐子)

はじめに

- 一 実務の積み上げによる二国間関係の改善
- 二 東アジア地域統合への機運の高まり

おわりに

第十三章 小泉内閣とナショナリズムの高揚 二〇〇一—二〇〇二年(加茂具樹)

はじめに

- 一 緊密化する経済関係と人的交流
- 二 日中両国が相互に重視する関係
- 三 日中双方における両国関係の意味
- 四 悪化する日中両国民の相互イメージ

おわりに

第十四章 胡錦濤政権と新思考外交の挫折 二〇〇三—二〇〇五年(伊藤 剛)

はじめに——「期待」と「認識」の懸隔

- 一 胡錦濤政権の始まりと新しい日中関係への呼びかけ
- 二 日中相互の「期待」と「認識」
- 三 日中関係の靖国参拝・歴史問題への収斂

おわりに

第十五章 戦略的互惠関係の模索と東シナ海問題 二〇〇六—二〇〇八年(阿南友亮)

はじめに

- 一 「戦略的互惠関係」の背景
- 二 「戦略的互惠関係」の形成過程と重点
- 三 東シナ海をめぐる日中の確執と協調

おわりに

第十六章 民主党政権誕生以降の日中関係 二〇〇九—二〇一二年(伊藤剛、高原明生)

はじめに

- 一 世界金融危機の勃発と日米の対中政策の展開
- 二 中国の新たな外交方針
- 三 尖閣諸島問題の再燃

おわりに

II 経済

刊行にあたって i

I 日中経済関係の概観

第一章 国交正常化以前の日中経済交流(嶋倉民生)

- 一 民間貿易協定の始動
- 二 「政経不可分」と日中経済交流
- 三 LT貿易の時代へ
- 四 国交正常化への日中経済交流

第二章 日中経済関係四〇年の概観(服部健治)

- はじめに
- 一 日中経済関係の必要十分条件
 - 二 年代ごとの日中経済関係の特色
 - 三 「安定」から「協調・競合」へ
 - 四 日中貿易と対中直接投資の概観

第三章 外交官からみた日中経済交流 日中の経済外交を回顧して(松本盛雄)

- 一 対中経済協力開始の経緯とその意義
- 二 天安門事件後の対中経済協力の復活と民間投資促進の枠組み
- 三 中国のWTO加盟交渉の経緯と「世界の市場」に向けた転換

第四章 通商関係からみた日中経済関係(波多野淳彦)

- 一 一九七〇年代の日中通商関係
- 二 一九八〇年代の日中通商関係
- 三 一九九〇年代の日中通商関係
- 四 二〇〇〇年代の日中通商関係

II 国交正常化実現から改革・開放の始動まで 一九七二～一九七八年

第一章 概説(服部健治)

- はじめに
- 一 国交正常化直前の経済界の動き
 - 二 民間経済団体の動き
 - 三 相互理解への模索
 - 四 第一次中国ブームへ

第二章 広州交易会の変遷(小島末夫)

- 一 中国の貿易体制
- 二 広州交易会の軌跡
- 三 日中契約高の比重低下
- 四 相対的に縮小する広州交易会の役割

第三章 日中長期貿易取り決めの締結(小島末夫)

- はじめに
- 一 取り決めの意義
 - 二 長期協定の評価
 - 三 問われる存在意義

第四章 主な業界の動き

- はじめに 服部健治
- 一 一九七〇年代における新日鐵の対中協力 (三田地教一)
 - 二 日本企業による石油化学プラントの建設 (横井陽一)
 - 三 一九五〇年代に始まったコマツの中国事業 (茅田泰三)
 - 四 改革・開放初期における工作機械産業の技術移転 (広田紘一)

III 改革・開放の実行から南巡講話まで 一九七九～一九九一年

第一章 概説（服部健治）

- 一 改革・開放のインパクト
- 二 第二次中国ブームと新たな課題
- 三 対中直接投資と加工貿易の拡大

第二章 対中ODAの開始（関山 健）

- はじめに
- 一 中国の外資政策変更
 - 二 対中ODA開始決定の経緯
 - 三 対中ODAが果たした役割

第三章 プラント契約問題（小島末夫）

- はじめに
- 一 爆発的なプラント契約の経過と特徴
 - 二 大量契約の背景と要因
 - 三 プラント契約の発効留保
 - 四 プラント建設の中止・延期と契約キャンセル

第四章 貿易不均衡への対応（小島末夫）

- はじめに
- 一 中国側の大幅な貿易赤字の出現
 - 二 赤字縮小に向け輸出拡大策を強化
 - 三 日本側の対中輸入促進努力
 - 四 香港経由分を加算するとほぼ収支均衡

第五章 主な業界の動き

- はじめに（服部健治）
- 一 中国の自動車産業政策と日本の自動車メーカーの対応（嶋原信治）
 - 二 パナソニック（松下電器グループ）の中国事業の始まり（青木俊一郎）
 - 三 日中物流業界の変遷（根岸宏和）
 - 四 全日空の日中航空路線の開設（山崎邦生）
 - 五 海運業をめぐる日中の相克（三浦良雄）
 - 六 中国に傾斜する繊維・アパレル産業（辻美代・江花徹）

IV 南巡講話から中国のWTO加盟まで 一九九二～二〇〇〇年

第一章 概説（服部健治）

- 一 対中投資の加速化
- 二 貿易と投資の緊密化
- 三 チャイナ・リスク

第二章 大連工業団地（梅村賢二）

- 一 大連工業団地構想の始まり
- 二 日本企業の動きと大同団結へ
- 三 合弁会社の設立
- 四 販売不振と資金問題
- 五 完売と合弁会社の終息
- 六 大連工業団地プロジェクトの総括

第三章 アジア通貨危機の影響(大西義久)

- 一 アジア通貨危機の発生
- 二 香港、中国への影響
- 三 日本の企業、銀行の対香港・中国ビジネスへの影響
- 四 アジア通貨危機の中国への教訓とその後の金融制度改革への歩み

第四章 投資現場が直面した課題(服部健治)

- はじめに
- 一 輸出増値税の不還付
 - 二 債権の未回収
 - 三 労務問題
 - 四 乱收費
 - 五 設備輸入の免税措置見直し
 - 六 外貨管理の規制強化

第五章 広東国際信託投資公司(GITIC)の破産(梅村賢二)

- 一 G I T I C破産の背景
- 二 G I T I Cと日本の銀行の関わり
- 三 処理の経緯
- 四 破産処理における問題点
- 五 G I T I C破産の影響

第六章 知的財産権の侵害(日高賢治)

- 一 中国における知的財産権制度の歴史
- 二 日中間の知財交流
- 三 知的財産権分野における日中間の課題
- 四 今後の課題

第七章 主な業界の動き

- はじめに (服部健治)
- 一 資生堂の中国進出 (鳥海康男)
 - 二 ビール業界 (西野昌男)
 - 三 広告業 (渡辺浩平)
 - 四 通信事業 (町田和久)
 - 五 オートバイ産業 (大原盛樹)
 - 六 銀行業 (梅村賢二)
 - 七 総合商社 (小山雅久)

V WTO加盟以降の日中経済関係 二〇〇一～二〇一二年

第一章 概説(丸川知雄)

- 一 「世界の工場」中国
- 二 「世界の市場」中国
- 三 日本へ進出する中国
- 四 経済摩擦

第二章 個別日系企業をめぐるトラブルとその背景(渡辺浩平)

- はじめに
- 一 中国社会の変化
 - 二 中華の侮辱

- 三 転換点としての「反日デモ」

第三章 経済摩擦 初の対中セーフガード、対日アンチダンピング(小島末夫)

はじめに

- 一 対中セーフガード
- 二 活発化するアンチダンピング調査の立件

第四章 食の安全問題(丸川知雄)

- 一 中国からの食料品輸入
- 二 中国産食品の安全問題
- 三 日本産食品の放射性物質問題

第五章 環境協力(長瀬 誠)

はじめに

- 一 環境案件への傾斜
- 二 環境案件の事例紹介
- 三 日中環境協力の体制・システム変化
- 四 対中環境協力事業の評価
- 五 おわりに

第六章 研修・技能実習生をめぐる日中関係(岡室美恵子)

- 一 日本における外国人研修制度
- 二 中国人研修・技能実習生への依存
- 三 日本への研修派遣の始まり
- 四 研修・技能実習生の課題
- 五 研修・技能実習生制度の今後

第七章 対中ODA(円借款)の終了(関山 健)

はじめに

- 一 対中ODAをめぐる状況変化
- 二 対中ODA見直し
- 三 対中円借款の新規供与終了

第八章 主な業界の動き

はじめに (服部健治)

- 一 丸紅の中国不動産事業 (徳永貴司)
- 二 保険業 (藤田桂子)
- 三 証券業 (関根栄一)
- 四 弁護士の中国業務 (曾我貴志)
- 五 小売業 (黄磷)
- 六 日中の観光交流とJTB (坪井泰博)

VI 今後の日中経済関係

終章 中国の経済大国化と日中関係(丸川知雄)

- 一 日中関係の変化
- 二 競争相手としての中国
- 三 日本と中国の新たな優位性

あとがき

日中経済関係年表 i

* 注および参考文献については各章末に収めた。

* 総索引は、『日中関係史 1972-2012』(全三巻)を通した索引として、Ⅲ社会・文化に収める。

Ⅲ 社会・文化

刊行にあたって i

序章 日中相互認識の四〇年——文化イベントにみる相互イメージの不定型化(園田茂人)

はじめに

- 一 日中の相互イメージを規定するもの
- 二 本書の基本モチーフ、構成、及びその論点

おわりに

I 冷戦体制化の「日中友好」

第一章 パンダがやってきた！(一九七二年)——中国の対日ソフトパワー史(家永真幸)

はじめに

- 一 パンダと中国外交
- 二 日中友好とパンダ神話
- 三 パンダをめぐる新局面

おわりに

第二章 「大平学校」とは何か(一九八〇年)——日中知的交流事業の紆余曲折(小熊旭、川島真)

はじめに

- 一 日本語教育から本格的な日本研究へ(一九八〇年代)
- 二 援助と共生のあいだ(一九九〇年代)
- 三 対中文化交流事業の旋回(二〇〇〇年代)

おわりに

第三章 進出か、侵略か(一九八二年)——日中歴史認識問題の変遷と課題(川島 真)

はじめに

- 一 日中国交正常化以前の歴史認識問題
- 二 日中国交正常化における戦争責任問題
- 三 日中関係の「蜜月」と教科書・靖国神社参拝問題
- 四 天皇訪中と村山談話——交錯するベクトル
- 五 江沢民国家主席の訪日とナショナリズム
- 六 小泉政権の歴史問題の複雑化

おわりに

第四章 歓迎、中野良子！(一九八四年)——映画による相互イメージの変転(玉腰辰己)

はじめに

- 一 一九七〇年代
- 二 一九八〇年代
- 三 一九九〇年代
- 四 二〇〇〇年代

おわりに

第五章 もう一つの天安門事件(一九八九年)——日中相互認識をめぐる報道フレームの転換(高井潔司)

はじめに

- 一 友好フレームの形成
 - 二 友好フレームの展開と批判
 - 三 ひと時の「開放フレーム」
 - 四 「普遍的価値フレーム」をもたらした天安門事件
- おわりに——「普遍的価値フレーム」の課題

II 錯綜する利益とまなざし

第六章 台湾・総統選挙の衝撃（一九九六年）——日中関係を揺さぶる台湾ファクター（清水 麗）

はじめに

- 一 台湾問題の再浮上
- 二 「親日台湾」イメージ形成
- 三 「中国脅威論」と台湾
- 四 揺れる台湾論と嫌中ムードの定着

おわりに

第七章 酒田短期大学、閉校す（二〇〇二年）——日中留学生交流秘史（牧野 篤）

はじめに

- 一 戦後中国人留学生受入れ秘話
- 二 日本留学のいきさつと経験
- 三 「逃れられない」日本へ
- 四 「代替」「手段」から「目的」へ

おわりに

第八章 北京工人体育場の悲劇（二〇〇四）——スポーツにみる日中関係史（吉岡桂子、斎藤徳彦）

はじめに

- 一 反日の舞台
- 二 ピンポン外交——それは政治利用から始まった
- 三 国家と個人との間——日中スポーツ交流の歩み

おわりに

第九章 大連、吹き荒れるストライキ（二〇〇五年）

——日本人ビジネスマンが見た企業内摩擦の変遷（園田茂人）

はじめに

- 一 変わる中国のビジネス風土——社会主義の後退が生み出す変化
- 二 変化しない中国のビジネス環境——関係主義という「文化の型」

おわりに

第十章 池袋チャイナタウン構想に「待った」（二〇〇八年）——日本型共生に向けて（陳來幸）

はじめに

- 一 新華僑と老華僑
- 二 横浜港開港から四〇年 VS 日中国交正常化からの四〇年
- 三 日本の華僑華人社会
- 四 アイデンティティの変化

おわりに

総索引 i